



有明の風景（みやま市高田町）

目次

- | | |
|---|-----------------------------|
| ● 新年挨拶（連合会 後藤会長）..... 1 | ● 新任役員研修会..... 9 |
| ● 年頭所感（福岡県 麻生知事）..... 2 | ● 福祉・家事援助育児支援サービス事業..... 10 |
| ● 福岡県シルバー人材センター
事業活性化計画目標達成に向けて... 3 | ● 職員研修会の開催..... 11 |
| ● 安全・適正就業対策委員会の活動状況..... 5 | ● 一般労働者派遣事業について..... 11 |
| ● 普及啓発事業活動..... 7 | ● センターだより..... 12 |
| ● シニアワークプログラム事業とは... 8 | ● 事故のないセンターを目指して..... 14 |
| ● 公益法人新制度対応実務研修会..... 9 | ● 一言コーナー・今月の表紙 |
| | ● 編集後記 |



新年のあいさつ

(社)福岡県シルバー人材センター連合会

会長 後藤 達 太

あけましておめでとぅございます。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。
連合会会長に就任以来4年目の新年となりました。皆様とともに輝かしい2009年を迎えられますのは無上の喜びであり、感謝いたしております。

平素は、皆様からシルバー人材センター事業発展のためご支援ご協力をいただき、お陰様にて当連合会の事業運営は順調に推移いたしております。
年頭にあたり、衷心より厚くお礼申し上げます。

昨年は、国際金融危機が日本の経済に影響を及ぼし、株価続落の要因となり、更に円高が進行して輸出企業、とりわけ自動車産業等は大きな打撃を受けて日本全体に激震が走り、景気は一気に下降しました。
これが、雇用情勢や諸物価などに反映して景気回復の先が見えない低迷状態に陥り、今後の日常生活への波及が懸念されていきます。

さて、国の新雇用戦略において団塊世代・高齢者の活動支援策の一環としてシルバー人材センターは、「2010年度会員数100万人」を目標とすると示されたことから、当連合会は「会員数3万8千人」を目標と定め、この数値を達成させるため

当連合会常務理事が各シルバー人材センターを訪問し、協力要請をさせていただきました。この目標数値達成は、今後のシルバー人材センターの命運に係わることをご理解いただき、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、新たに「教育・子育て・介護・環境」を重点として地方自治体とシルバー人材センターが連携して取り組む事業が始まりました。この企画提案方式による事業は補助金交付に対して従来の固定化した概念による運営から「考えて財源を創出する」運営への切り換えが必要で組織体制の整備と体制改善が強く求められていると思われます。つねづね申し上げておりますように、シルバー人材センターは前例踏襲のマナーリ化を廃し、時代の流れに沿って前進しなければなりません。まさしく「変化」させることが必要です。

シルバー人材センターにとって「変化」とは「進化」させることであり、進化論が唱える「時代の変化に対応できないものは消滅する」ことを想起して、今こそ、「変化」への第一歩を大胆に踏み出す時機が到来したと思えます。

そのためには、シルバー人材センターの

原点に立ち返り、基本理念や先人達の精神を問い、地域の高齢者の琴線にふれて共鳴するものを探し出すことが先決であると思われれます。

これに併せて、新公益法人制度への移行についても視野においていなければなりません。シルバー人材センターは公益社団法人又は公益財団法人への移行が必至であると言われており、そのため都道府県公益認定審議(委員)会における認定基準を満たす規律ある事業運営が当然必要であります。この件について、今後当連合会は各シルバー人材センターと協議を進め、新制度への移行について支障なきを期す所存であります。

このように、本年も課題は山積してありますが、シルバー人材センター事業を取り巻く環境は、かつてない厳しさを余儀なくされております。

地域の高齢者がいきいきと活動し、そして、地域社会に貢献する活力源として、皆様のご支援ご協力を期待している所でございます。

新しい年が皆様にとって幸多い年になりますようご祈念申し上げます。挨拶といたします。



年頭所感

福岡県知事

麻生 渡

あけましておめでとうございます。

皆さまには晴れやかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年12月、日本、中国、韓国三カ国による首脳会議が、福岡県、九州国立博物館で開催されました。世界が大きな経済的困難に直面する中で行われた会議は、世界の国々から注目を集め、本県がアジアの交流拠点として内外から高く評価される会議となりました。

昨年は、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」と「九州・山口の近代化遺産群」がいずれも世界遺産の暫定リストに登録され、世界遺産登録に向けて大きな第一歩を踏み出しました。

北京オリンピックでは、ソフトボールで金メダルを獲得した上野選手や藤本選手、5大会連続でメダルを獲得した柔道の谷選手など、本県出身選手が世界を舞台に大活躍し、県民に元気を与えてくれました。グローバル化・深化する中、今年も福岡県を大いに世界に発信してまいります。

世界経済は、米国に端を発する金融シス

なりました。中小企業や農林水産業者への資金対策や雇用確保対策に全力を挙げて取り組んでまいります。

今回の世界的な難局を乗り越えるためには、新たな製品やサービスを開発し、世界市場を創造、開拓していくことが重要です。本県が進めてきた自動車や先端半導体、水素エネルギー、バイオ、ロボット、コンテンツなど先端成長産業の育成により培われた技術や研究成果を大いに活用し、新たな世界市場の創出にも力を入れてまいります。

今年には、「新しい時代の公」を担うNPO・ボランティアと企業、行政との協働社会を進めてまいります。また、生涯学習やスポーツ・文化、安全で安心して暮らせるまちづくりなど新しい社会づくりを推進します。

女性の再就職や母子家庭の就業支援、SOHOや新生活産業の育成を推進し、多様な働き方を選択でき、女性が活躍する共同参画社会づくりを進めます。

少子化が進み、多くの県で出生数が減少する中、本県の出生数は3年連続で増加しています。独身者の出会いを応援する「新

たな出会い応援事業」の推進や、「子育て応援宣言企業」3千社、「子育て応援の店」1万店の登録を目指し、結婚・子育て応援社会づくりを進めてまいります。

高齢者が年をとっても元気で安心して生活を楽しむ健康長寿社会をつくるため、ねんりん・スポーツ文化祭「やひとり暮らしの高齢者の見守り事業」などに取り組んでまいります。障害者がいきいきと地域で暮らすことができるよう、社会参加や雇用の拡大、工賃の増加など自立支援施策を推進してまいります。

生活満足度の高い活力ある福岡県をつくるためには、高齢者の皆さんが長年培われた豊富な経験を生かし、地域社会の一員として生きがいを持ち、心身ともに充実した生活を送っていただくことが不可欠です。

このような中、シルバー人材センター事業の役割は今後ますます重要となつてまいります。会員の皆さまのより一層のご活躍を期待いたします。

本年が、皆さまにとって素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

福岡県シルバー人材センター 事業活性化計画目標達成に向けて

全シ協全国都道府県連合事務局長打合せ及び 九シ協各県連合事務局長会議における取組み状況等

少子高齢化の進行により、若年労働者人口は減少が見込まれる中で、国内経済の活力を維持するには、高齢者の豊富な知識と経験、能力技術等を有効に活用することが必要となっています。また、団塊の世代が定年年齢に達し本格的な高齢化社会を迎え、高齢者の就業ニーズは一層多様化する中、高齢者雇用安定法の改正による65歳までの雇用延長の実施等で雇用情勢も大きく変わり始めました。

さて、当県におけるシルバー人材センター事業活性化計画については、本誌第23号（平成20年1月発行）掲載のとおり平成19年度初頭に各シルバー人材センターを訪問して事業概要の説明を行い、目標達成について協力要請をいたしたところであります。

先般の全シ協全国都道府県連合事務局長打合せ会において、この事業は国の補助事業制度の根幹に係わるものであり、補助金

の確保をより以上に強固にするため事業活性化計画の目標達成が必要不可欠であるとの説明がありました。

このようなことから、各センターにおかれましては、事業活性化計画の目標達成について格段のご協力をお願いする次第であります。

また、九シ協各県連合事務局長会議における九州各県の取組状況について、様々な観点から地域の事情等勘案した真剣な議論を行い、その中で、会員一人が新入会員一人の入会を働きかけること、連合会への寄附金を原資にチラシを作成して県内全戸に配布する計画やセンター間が連携して新聞や市町村広報誌を活用した取組等、目標達成に向けた実施状況が報告されました。

当県においても各センター安全就業活動や普及啓発活動をとおして、あるいは毎月の市町村広報誌を活用し会員の入会に努めており、また、センター独自のチラシを作

成し全戸配布を実施するなど目標達成に向けた工夫の跡が見られます。

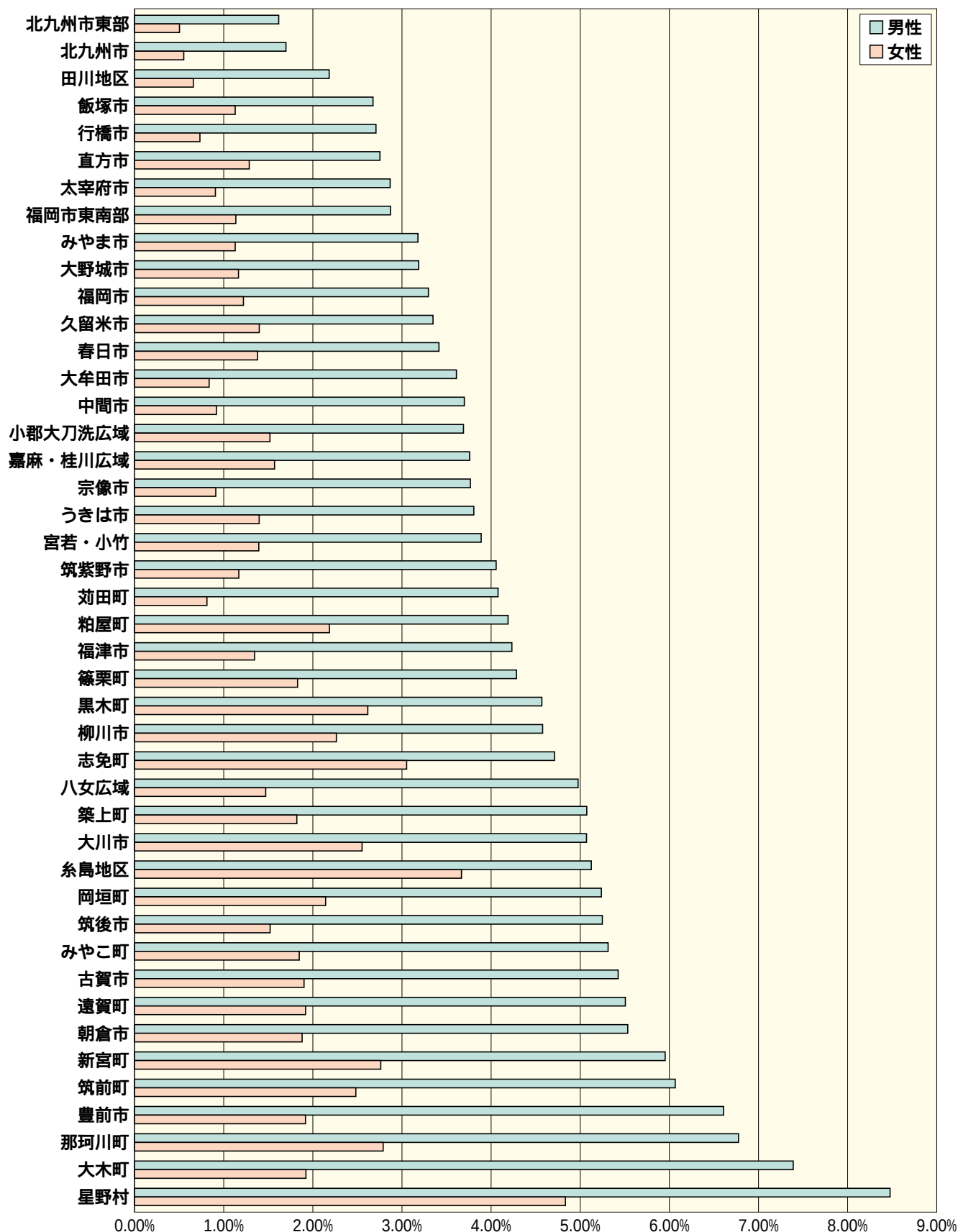
一方、健康な高齢者の意向を聞くと、シルバー人材センターの事業状況が就業のみに支えられ、その中でも屋外作業中心の現状では魅力がないし入会する気になれないとの指摘が多数あることが憂慮されます。このことを謙虚に受け止め、今後の取組の教訓とすべきではないかと思われま

す。当連合会及び各センターは、時代の変遷と共にシルバー事業のあり方について様々な観点から改めて検討すべきことを強く認識し実行することが望まれます。

当連合会が掲げる「事業活性化計画目標会員数3万8千人」の達成に向けて更なる活動の継続をお願いするものであります。

男女別粗入会率

粗入会率：60才以上人口に対するシルバー会員数の割合



安全・適正就業対策委員会の活動状況

1 安全・適正就業対策委員会

第2回（6月25日 連合会会議室）

安全就業促進大会について、事務局案に対していろいろと意見が出されました。特に前年度の経験を参考に参加者が関心をもてる内容にするようにとの指示がありました。

7月改定施行される委員会要綱に従い各ブロックから推薦された委員会委員候補者を提出し承認されました。

第3回（7月30日 博多パークホテル会議室）

委員会要綱改正に伴う新委員による初会合となりました。今回から、就業現場を理解されている事務局長及び安全・適正就業推進員が4ブロックから各一名加わったことにより、中味の濃い、実践的活動が期待されます。

当日は、昨年委員会が示した安全就業遵守事項の取り組み状況について、センター

の現状と意見交換が行われました。

第4回（12月11日 博多パークホテル会議室）

重大事故発生に伴う対応策、最近の事故発生状況と事故分析および全国シルバー人材センター事業協会（全シ協）安全・適正就業パトロール指導員研修の報告を行いました。

2 安全就業促進大会

7月24日（木）福岡市大博多ホールにおいて県下シルバー人材センターの理事、安全委員会委員、会員、職員など348名の参加のもと安全就業促進大会を開催しました。会長挨拶、来賓挨拶等について安全標語の入賞者発表と表彰を行いました。

安全標語は26センターから202点の応募があり、安全標語審査委員会において審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点を選定し、入賞者には賞状と記念品

を贈りました。

また篠栗町シルバー人材センターが全シ協の安全就業優良センターとして表彰されましたのでその報告がありました。

特別報告として吉田安全・適正就業対策委員長から昨年多発した重大事故に鑑み、一層の安全就業に努められるよう要請がありました。

恒例の事例発表は、（社）直方市シルバー人材センター安全・適正就業推進員の飯野健氏から安全帽完全着用への取り組みについて紹介していただきました。一つの事故を契機として職員と会員が真剣に安全就業に取り組み、徐々に会員の安全意識が高まりました。紆余曲折もあったようですが、完全着用達成に向けた強い姿勢が感じられ、各センターへの拡がりが見られるところで

す。

交通安全講話は福岡県警博多署の北條豊交通総務係長から最近の交通事故状況、特

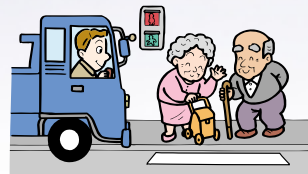
に高齢者の交通事故の特性について解説がありました。

記念講演は、健康生きがい開発財団講師の坂本徳俊氏に「からの安全、こころの安全、

笑いはクスリ」という

演題で、随所に笑いを誘う巧妙な話と舞台を縦横に動かれての熱演、さらにシルバー世代に関心度の高い健康についての講演は、あつという間の一時間でした。

最後に(社)田川地区シルバー人材センター安全対策委員長の小野已知生氏により安全就業宣言を行い、参加者一同の賛同を得、大会は終了しました。



3 安全・適正就業パトロール

平成20年度の安全・適正就業パトロール実施計画に基づき、安全・適正就業対策委員会委員及び委員会事務局が8月から2月までに14センターを目標に訪問し、会員の就業現場をパトロールして就業会員の方々と意見交換をしました。午後からは事務所にてあらかじめ作成依頼していた調査表に基づき安全・適正就業の取り組み状況につ

いて聞き取り調査を行っています。

本年度の安全就業重点項目である「安全保護具着用一〇〇％達成」については、剪定作業に加え草刈作業についてもヘルメット等の着用が徹底しつつあり、草取り作業のヘルメット着用も容易に会員の理解を得られないものの徐々に着用方向に向かっていくことがうかがえました。



また、重点目標の一つ「高所危険作業の解消」に関しては、樹木等の高さを従来より低く剪定、伐採することで高所作業の解消を図ろうと発注者に理解を求めているセンターがあることを知り、大変心強いものを感じました。

一方では、安全就業確保に懸命な努力をしても、なかなか会員の皆さんに伝わらない、理解してもらえないこともあるようです。事務局が限られた時間内で安全・適正就業に時間を費やすにも自ずと限度があることも理解できますが、気をゆるめるわけにもまいりません。休むことなく会員の皆さんに安全就業を確保してもらうよう、時間をさいては話しかけて欲しいものです。

長期就業の是正については、会員の就業時間は1週間当たり20時間程度、1ヶ月当

たり80時間程度を上限として指導目標としています。目標が概ね確保されているセンターもあれば、まだ改善の余地があるセンターもあります。また、一部に会員の理解を得るのに難儀されているセンターもあるようです。少々時間を要しても、シルバー人材センターの基本理念に立ち返りセンターの存在意義を問い直すなど、理解を深めていく環境づくりが必要ではないでしょうか。

安全・適正就業は高齢者にふさわしい仕事とふさわしくない仕事をきちんと区別することが求められ、受注の際、発注者の方々にシルバー人材センターの理念を十分説明し、理解を求める努力も怠ってはならない大切なことです。



普及啓発事業活動

毎年10月は『シルバー人材センター事業普及啓発促進月間』として、全国的にシルバー事業のさらなる発展・拡充を目指し、県内の各シルバー人材センターはこの時期にそれぞれ活発に啓発活動を行っています。

福岡県シルバー人材センター連合会は、県内シルバー人材センター等が主催又は参加するイベント（下表）に加わり、シルバー事業紹介、会員募集、高齢者向け技能講習の案内等を総合リーフレットや啓発用品等で周知、広報活動を行いました。なお、普及啓発活動期間は、各地域でのイベント開催日に合わせたことから10月から11月にかけての実施となりました。各イベントは秋晴れのなか、多数の来場者が訪れ、様々な世代層に広くシルバー事業等の活動内容をPRできました。連合会相談窓口では、直接発注者の皆様からシルバー会員の仕事ぶりに関するお礼や励ましの言葉、ご意見等を頂き、また、退職前の方たちからはシルバー事業の仕組みについて興味をもって質問をされたり相談を受け、シルバー事業に対する関心が高まっていると認識いたしました。



イベント主催・参加団体	開催日時	イベント名	来場者数
		会場	
(社)福津市シルバー人材センター	10月19日(日) 9:45~16:00	第4回シルバーまつり ふくとびあいいきき交流館	約1,000人
(催し物) 会員委員会活動によるシルバー事業広報活動: チャリティー包丁研ぎ、シルバー事業紹介コーナー 体験コーナー(楽しいおもちゃ作りと簡単なおもちゃの修理)、親子むかしあそび(どんぐり駒、紙ひこうき等) 会員作品展(絵画・書・写真・盆栽・手芸等)、リサイクル自転車販売、農作物(大根等)・ポカシ販売等			
(社)福岡市シルバー人材センター	10月25日(土) 10:00~17:00	シルバーフェスティバル2008 (第12回 RKB ラジオまつり2008併設) RKB 毎日放送会館前	約42,000人
(催し物) 会員によるシルバー事業広報活動: 筆耕(のし袋記名)実演コーナー、竹細工(竹船)の展示 (竹とんぼ)販売・実演・体験(竹とんぼ・竹馬)コーナー、手芸品(服・バッグ・布草履・人形等)の展示・販売 着物姿の女性会員接客による野点コーナー、入会案内・相談窓口等			
(社)大野城市シルバー人材センター	11月1日(土) 10:00~17:00	大野城市生涯学習フェスティバル 大野城まどかぴあ	約25,000人
(催し物) 会員手芸品(ビーズアクセサリ・ストラップ、手編みクッション・バッグ等小物)展示・販売 体験コーナー(木の実を使ったブローチ作り、クリップで作るいも虫作り) 入会案内・相談窓口等			
(社)直方市シルバー人材センター	11月2日(日) 10:00~16:00	のおがた産業まつり2008 直方市河川敷(青果市場側)	約30,000人
(催し物) 会員手作り食品(たこ焼き・いきなり団子・焼き芋・ゆで卵・ご飯類)販売、農作物(さつま芋・自然薯)販売			
(社)福岡県樹芸組合連合会	11月1日(土) 9:30~16:00	耳納の市 福岡県立緑化センター	約20,000人
(催し物) 田主丸地域の特産品(植木・苗木・新鮮フルーツ・新鮮野菜・地酒・茶・菓子等)のPR活動			

シニアワークプログラム事業とは

60歳台前半層の就職希望者を対象とした技能講習、合同面接会等を行う事業です。
この事業は、社団法人福岡県シルバー人材センターが厚生労働省から委託を受け実施しています。

受講対象者

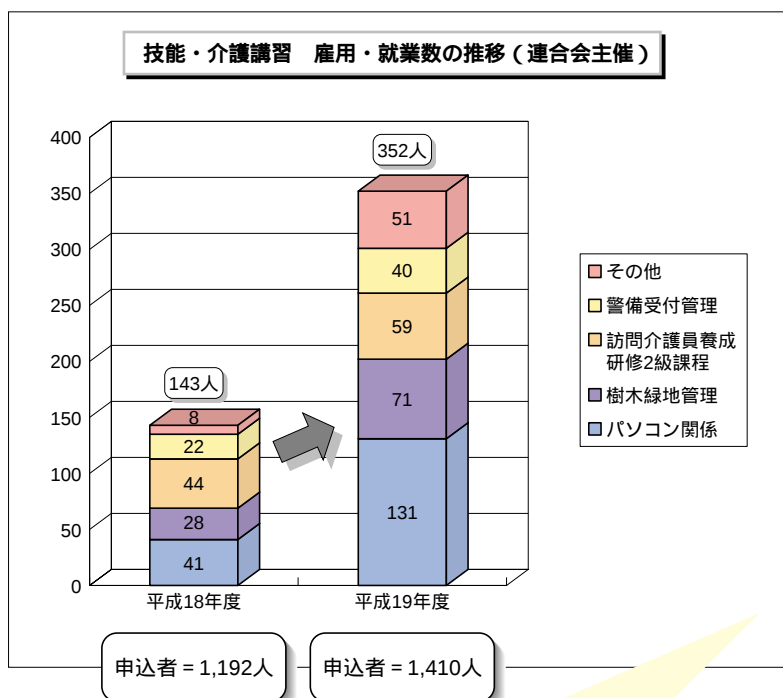
福岡県内に在住、60歳台前半層、雇用・就業を希望される方
過去1年間に当連合会主催の各種講習を受講していない方
申込者多数の場合申込書審査のうえ抽選により受講者を決定します。
就業中、趣味・教養としての受講はご遠慮ください。

受講申込方法

技能講習受講申込は公共職業安定所（ハローワーク） シルバー人材センター、
連合会ホームページで受理し内容記載の上郵送下さい。
連合会ホームページからインターネット上で直接申し込みもできます。

受講経費

受講料は無料です。
訪問介護員養成研修2級課程（ホームヘルパー）実習のための健康診断料は自己負担になります。



2006年4月に「改正高年齢者雇用安定法」が成立し、事業主に対して65歳までの段階的な雇用延長が義務付けられ、厚生労働省の調査では9割以上の企業が継続雇用を実施しています。今後も高齢者を取り巻く雇用環境、ニーズの変化等に留意し企画提案を行って事業を展開する必要があります。

シニアワークプログラム 技能・介護講習状況



訪問介護員養成研修2級課程
（足浴実習）



フォークリフト技能講習
（走行の操作実技）

公益法人新制度対応実務研修会

日時 平成20年10月31日(金) 10:00～16:00

場所 福岡県中小企業振興センター 301会議室

平成20年12月1日新公益法人制度(公益法人関連三法(法人法・認定法・整備法))施行前に福岡県内シルバー人材センターの役職員及び事務局職員(出席者101名)を対象に、公益認定等に関して必要な知識と実務等を学ぶための研修会を開催いたしました。



研修会講師には、公益法人の機関・運営に精通した公益法人運営コンサルタント渋谷幸夫氏を迎え、(1)公益法人新制度に対する役職員・事務局職員の心構え(2)公益認定等ガイドラインの概要(3)公益認定移行手続きの実務等〔移行認定までのスケジュール策定、役員関係、法人の事業等〕(4)内部諸規程の雛形解説等(5)定款変更ガイドライン・「定款の変更の案」作成等(定款作成時の留意事項)についての講義がありました。

今後、5年間(平成25年11月30日まで)のうちに、現行公益法人は組織体制を見直し、新制度に対応する法人運営を求められます。シルバー人材センターも例外ではなく、組織改変を行うこととなります。公益認定は、公益目的事業を行うことが当該法人の主たる目的であり、実施事業ごとの経費を算出して区分し、そのうち不特定かつ多数の者の利益増進を図るために行う公益目的事業が50/100以上にならなければ認可されません。この移行認定申請手続きに関しては、資料作成等に相当の事務量が必要と想定されるので、いつの時点で申請を行なうかは、焦らず関連団体等の情報収集等を行い、事業計画の策定及び予算編成について慎重に取組むよう指導がありました。



新任役員研修会

日時 平成20年12月12日(金)
13:00～16:00

場所 博多都ホテル3階孔雀の間

理事は法人の事業目的を達成するための執行機関であり、監事は理事の業務執行と法人の財産状況を監査する立場となっており、これらの役員は法人運営にとって重要な役割と責任を持っています。

当連合会では、これまで会員理事研修

会や監事研修会を実施したことはありましたが、今年度初めて福岡県内シルバー人材センターの新任役員(理事・監事:出席者122名)を対象に理事・監事合同の研修会を開催しました。

研修会の講義Ⅰは、当連合会前調査役、シルバー人材センター常務理事経験者の橋本明爾氏から『シルバー人材センター役員の役割等について』組織の基本理念や理事の積極的な事業活動参加等について講話がありました。また、講義Ⅱでは、(社)全国シルバー人材センター事業協会主催の『新任理事長研修会の概要について』(社)柳川市シルバー人材センター理事長高田澄男氏から研修報告及び当該センターの現状と課題について聴講しました。

只今、研修中！

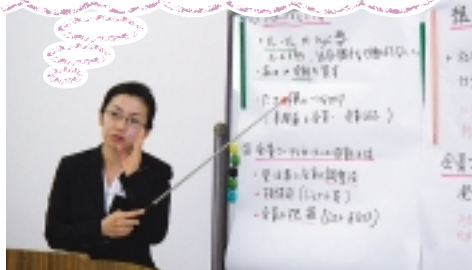
福祉・家事援助 育児支援サービス事業

グループ別担当職員
コーディネーター研修会



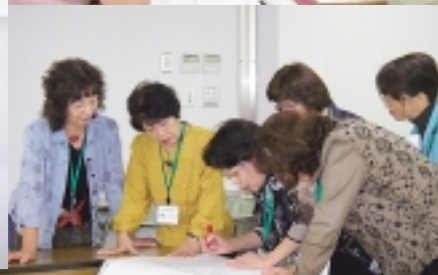
秋は研修のシーズンです。
職員も会員の皆さんもそれ
ぞれの分野で熱心に研修を
受けています。

会員コーディネーター
養成研修3日間



①組織とは
シルバーの組織として
自主・共働・共助
地域社会貢献
仕事・分担・役割を決めていく
安全確保に心掛ける

②会員コーディネーターの役割とは
お事務と会員の橋渡しをする。
(架け橋)
やさしい声、いい印象を持つ、そして
仕事の内容も理解する
（笑顔と声）



障がい者生活支援
フォローアップ研修3日間



子育て応援会員養成講座
実践編4日間



ママがお料理する間、
シルバーママと遊んでるよ

職員研修会の開催

会計・業務担当職員研修会について

平成20年8月27日(水)、福岡センタービル(福岡市)において、会計担当職員、業務担当職員合同の職員研修会を開催しました。

会計や業務といった、日頃の仕事の垣根を越えて、シルバー人材センターの主要業務を担当する職員が一堂に会しました。

県下のシルバー人材センターから70名の出席があり、公益法人会計業務やシニアワークプログラム事業、今年度からスタートした企画提案型事業や情報システム及び情報公開について、1日を費やしての研修でした。

新公益法人会計基準に基づく財務管理や財政分析などは、日頃は業務担当職員が直接携わる仕事ではありませんが、シルバー人材センターという組織の全体像や、事業の将来的展望を推し量るには必要な知識であり、今後さらに理解を深めていく必要があります。また、企画提案型事業については、新しい事業を会員や職員が一丸となって取り組まなければならない事業であり、経費の算出や予算執行面で関わる仕事です。



従来、会計や業務はそれぞれの分野として、また、専門領域として仕事をしてきましたが、これからは、事務局全体が共通の認識をもち、シルバー人材センター事業全体の発展のために努力していかなければなりません。連合会では、こうした視点に立つて、今後も全体研修を企画していく予定です。

シルバー人材センターが行う

一般労働者派遣事業について

シルバー人材センターの会員や一般高齢者の方々の就業ニーズ、また多種多様な企業ニーズに対応するため、シルバー人材センターの新しい受注システムとして、一般労働者派遣事業への参入が可能となりました。

今までのシルバー人材センターは、発注者(お客様)からご依頼いただいた仕事を、時間や作業方法などにはしづられず、会員の裁量で仕事を完成させるという「請負」または「委任」を基本とした受注を行ってきました。しかし、発注者の方々からは、時間単位での仕事や、作業の仕上がり具合をその都度確認しながら指示を出したいという要望が多くなってきました。

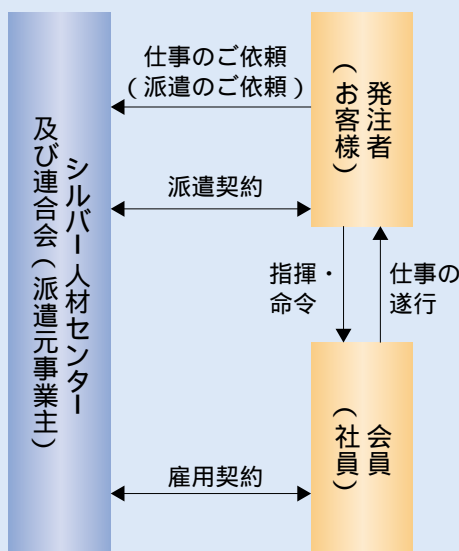
こうした変化に対応するため、平成16年度にシルバー人材センターの根拠法である「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」を改正し、各都道府県のシルバー人材センター連合会が届け出を行うことにより、人材派遣事業を行うことができるようになりました。

シルバー人材センターで行う事業ですので、1か月10日程度、一週間で20時間程度という「臨時的かつ短期的」という基本は変わり

ませんが、発注者からの指揮・命令を受けての仕事は可能になります。

会員は連合会の社員となるなど、システムは複雑で、今後検討が必要とする事業ですが、新しい就業の形で

派遣事業のイメージ





(社)柳川市シルバー人材センター

センター運営の適正化を目指して

旧・柳川市、三橋町、大和町の合併に伴い、平成17年4月1日に1市2町のシルバー人材センターが統合いたしました。

統合後4年目を迎え課題事項は少しずつ解消しつつありますが、財政状況は益々厳しさを増し、平成22年度には、国の補助金は合併特例措置がなくなり補助金額は大幅な減少となります。市の財政も厳しく、シルバー人材センターに対する補助金は国に運動して交付するとの通知を受けました。補助金が年々減少して運営が苦しくなっていくのを看過することはできず、この状況を打開するためには、センター全体で知恵を出し合い運営努力をいたさねばなりません。

平成20年度の企画提案型の事業には、積極的に取り組むこととし、まず、「子育て」「教育」の複合分野の事業で市が掲げている「地域子育て支援センター事業」と連携しながら実施しております。

内容は、子育て家庭を対象に地域のニーズに応じた保育サービス、産前産後の家事手伝い、学童保育の補助、育児相談及び育児のヘルパー講習を行っております。また、柳川地方に伝わる独特の「さげもん・柳川まり」等の伝承をシルバー会員によって、小学生を対象に講習会を開催しました。更には、小・中学校生徒の下校時の安全を守るため「子ども見守り隊」を結成して、地域社会の安全や親への不安を解消するため、やさしい思いやりあるまちづくりに貢献することをめざして会員が積極的にボランティア活動を行っており

ます。

安全就業につ

いては、毎朝就業前にラジオ体操を実施し、ヘルメット着用の指導を行い、会員自身の「自己管理」能力の大切さを推進いたしているところです。また、自転車やバイクの講習会を警察の指導で行いました。その他にも、自動車学校でドライビングスクールや交通安全講習も行っております。

平成20年度は、(財)福岡県交通安全協会より、交通安全管理者としての表彰を受けましたが、これは、就業先への行き帰り等の交通安全及び車輛管理並びに会員の自己管理の徹底が表彰につながり、安全意識の向上に大変役立つことと感じております。

平成18年9月に適正就業対策委員会を設置して、危険作業や雇用まがいの就業の改善に取り組み、一応の成果をあげることが出来ました。

平成20年度は、適正就業基準要綱を定め、順次解決を図っております。また、労働者派遣事業の導入についても検討しているところです。

今後は、公益法人新制度へ移行するための運営方針について検討を行い、会員、役員、職員が一丸となつて、センター運営の適正化を図り、また、新企画提案事業にも、意欲的に取り組んでまいりたいと思ひます。





(社)那珂川町シルバー人材センター

独自事業の紹介

当センター鉄工班の吉村不二男さん（80歳）は、現代版村のかじやさんです。

多方面からの注文が絶えず、作業場は朝早くからガシャーンガシャーンと景気のいい音がしています。

35歳のころ、宮内庁の依頼で美智子様（現皇太后）の鏡台を制作したこともある腕利き



の職人さんです。

ガス溶接免許を取得しており、装飾金物・神社仏閣の装飾物・家紋の彫金・刀のつか・金物イス、手すり等金物に関する物は何でも作れます。

センターでの仕事は、農機具の修理・刃物研ぎ・会員さんの鎌・鍬はもとより脚立・車・フェンス等次から次と持ち込まれ毎日大忙しです。

大学の研究室からも金物部品の製作依頼があります。



福岡県西方沖地震で被害にあった神社の復旧にも携わりました。

町が設置している「悪書ポスト」は、いたずら者と修理のいたちごっこで、苦勞の連続です。

現在手がけている大物製作は「石焼きいも」焼き器です。

今年、休耕畑を借りて作ったサツマイモを、12月26日開催の「すこやかまつり」で焼きいもにし、試食会を行う予定です。

吉村さんのストレス解消法は「カラオケ」です。毎週木曜日の午後はセンターの「カラオケ愛好会」で自慢ののどをうならせています。

これからの夢を尋ねました。

「毎日仕事が出来ること感謝」、「先日家内が怪我をし、家事仕事の大変さをひしひしと感じました。これからはお互いに助け合いながら楽しい人生を送りたいものです。」
メガネの下からやさしい目がのぞいていました。



事故のない センターを目指して

(社)福津市シルバー人材センター
安全・適正就業推進員
熊谷 滋

福津市シルバー人材センターは平成17年4月1日に、旧(社)福岡市シルバー人材センターと旧津屋崎町シルバー人材センターとが統合し発足しました。

両センターの安全委員会は、安全・適正就業推進委員会と名称を変え、統合後増加した会員の安全対策を検討・実施することとなりました。委員構成は両地区から事故の発生頻度の高い職種代表者を選び事務局職員を含め10名で組織されることとなりました。しかしまだ事務局が福岡事務所と津屋崎事務所に分かれていた為、委員会を開催しても、それぞれの地区の委員はそれぞれの地区の状況しか把握しておらず全体的な安全対策は行なうことができませんでした。

2年目に事務所が1つになり剪定班・草刈班・除草班(一部を除く)・清掃班・生活サポート班がすべてセンター集合・センター解散となったのをきっかけに、センター集合会員全員参加のラジオ体操の実施・安全掲示板による無事故記録の提示・掲示板での安全ニュースの掲示等就業会員に見る安全意識の啓発を行うとともに、安全パトロールを年6回とし、チェックリストによる就業現場での巡回指導を行いました。しかし1年目・2年目と事故件数は減少せず横ばいの状況でした。

そこで委員会では「安全は一日にしてならず」と会員の安全意識の高揚を目的に活動を行ないました。そうした中、合併3年目の9月草刈班の会員が法面の草刈作業終了後、清掃中に4・5Mの高さから転落して腰骨を折り、2カ月程度の入院をする大事故が発生しました。

ヘルメット着用は徹底していましたが、幸い命に別状はありませんでしたが、会員の年齢は87歳でありそれまで職種変更の再三の呼びかけにも応じない会員でした。

委員会は緊急に会議を開き、会員の職種変更には、就業年齢による就業基準が必要であると認識のもと、早速基準の作成に取り掛かりました。総務委員会、理事会を経て、各職群班への説明会に至るまで事故発生から4カ月かかりました。

合併4年目の今年、年度初めに就業年齢による就業基準に基づき、対象職種の中で75歳以上の会員の面談を委員会で行ない、自分の就業している職種で就業するうえでの安全に対する意識の再確認を行ないました。委員会の活動もあつてか本年



交通安全講習会

度は現在まで傷害事故は1件にとどまっています。しかし賠償事故は前年同様に発生しており、委員会から、剪定班・草刈班・除草班を対象に、自分たちで必ず守れる安全就業マニュアルの作成を各職群班に依頼したところ、班長・安全担当を中心に各職群班独自の就業マニュアルが出来上がり、安全パトロール時には、そのマニュアルの中にある、そのマニアルの中にあげられている事項を中心にチェックすることとなりました。

4年目をむかえ、課題はまだ残されていますが、会員の安全意識も当初と比べて数段向上したと委員会では一定の評価をしているところです。今後も、委員会の活動を活発に行ない全会員の安全意識の高揚を推進し、事故のないシルバー人材センターを目指していきたいと思えます。



今号の表紙



有明の風景 (みやま市高田町)

撮影者 渡辺 義則 氏

元高田町シルバー人材センター
理事長

サラリーマン時代から写真が趣味で、町文化協会写真部の責任者として活躍されました。

インドを旅して



一言

コーナー

人口約11億人を有するインド、IT産業等により飛躍的に発展し続け、国民の貧富の差はますます広がりを正在している。

デリーなどの都市部の物価はここ数年急激に上昇し、街は高層ビル建設や地下鉄や道路が整備され、近代化している。反面田舎町へ行くと道の中央をのんびりと、牛やらくだ、羊の群れなどが行き交い、まるでタイムスリップしたような気分させてくれる。

国の経済は豊かになってきたといっても、いまだに国民の1/3は1日10Rs~50Rs(1Rs(インドルピー) 2円)程度の稼ぎで暮らしている。世界一の長寿国である日本と比べ、インドの平均寿命は65歳となっており、「医・食・住」が過酷な環境であることが伺える。児童労働者は世界で最も多く、約1億人の子ども

たちは学校に通うことなく、朝から大人同様に働いている。貧困家庭に生まれてきた子どもたちは、小さな頃からその環境を受入れ、親に逆らうことなくマジメに働いている。その姿を実際目にとると、私たち日本人の生活はとても恵まれていると実感する。ただ、働いている子どもたちに悲壮感が漂っているかという一概にそうでもなく、毎日一所懸命、家族のために働くことが自分の役目と認識していて、「生きる」ことに前向きでたくましい。人のるつぽインドを旅すると、そのタフさと向き合わざるを得ない状況が多くなり、いつしか自分も強くなければと思うようになるから不思議だ。



編集後記

中国の故事に次のような言葉があります。

【少壮不努力 老大徒傷悲】これは、「若いときに努力しなかったことを、老いてから嘆き悲しんでも取り返しがつかない。」

我が身を振り返り、今だ何事に付けても努力が足りないのではないかと思ひ、新年、更に氣力を充実させ、再度、新しい事に取り組みたいと考えています。あなたはどうですか？

最近の景気悪化などの理由で、高齢者の方が希望に沿う仕事に就けるのは依然厳しい状況にあります。高齢者技能講習(S.P)事業は、地域のニーズを把握し、各SCと連携し実効的な雇用・就業支援を目指したいと思ひます。

振り込め詐欺が相変わらず後を絶たなければ、シルバの事故も減らない。

双方に共通点があるとすれば、周りで起きているにもかかわらず関心が薄いということではないでしょうか？「もしかしたら自分も事故に遭うかも知れない。」という、少しばかりの想像力を働かせ、備えを怠らなければ、どちらも防げることではないでしょうか？

福祉・家事援助・育児支援サービス事業では、研修が続く、そのすべてを皆様にご紹介したため、文字よりも写真で掲載しました。その中で見えてきたものは、会員の皆様のいきいきとした表情と学ぼうとする前向きな姿勢です。

いくつになっても前向きに挑戦する姿こそが健康でいる秘訣なのだと感じました。

昨年11月、インド最大の商業都市ムンバイで『インドの9・11』と呼ばれる大規模な連続テロ事件が発生しました。経済市場を狙ったとの見解がありますが、根深い問題が潜んでいるようです。

以前は『安全大国』といわれていた日本も今はどこで何が起るか分からない世の中です。新年を迎え、世界の平和を祈るばかりです。

(本)

福岡県シルバー人材センター連合会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目9番2号

Y A O J I センタービル4F

TEL092-414-0287 FAX092-414-0297

(URL) <http://www.fscr.or.jp>



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインクを使用しました。また印刷はISO14001認証取得工場にて行っております。